モンゴル語

ジンガン

(1) (その仕事が終わったら)もう帰ってもいいですよ。
naadax ajl-aa duus-ga-čix-aad xari-ʃ bol-no šūū.

そちらの仕事-REF 終わる-TR-ACP-C.ANT 帰る-C.SIM なる-PRS SFP

解説：拘束的モダリティのうちの「許可」は CV-J bol-という複合形式によって示される。この形式が動的モダリティのうちの状況可能も示す場合がある。

(2) （起きているから、あなたは）それを食べてはいけない。／それを食べなな。
naadax čini muud-čix-sen büü/bitgii id-ʃ.

そちらの2POSS 腐る-ACP-P.PRF PROH 食べる-IMP

解説：拘束的モダリティのうちの「禁止」は、モンゴル語において、動詞の命令形の前に否定表現のbüü/bitgiiが置かることによって表現される。または以下のように、CV-J bol-の否定表現であるCV-J boloxgiiによって状況的に不可能だということを示すことも可能である。

naadax čini muud-čix-sen bol-ox-oor

そちらの2POSS 腐る-ACP-P.PRF なる-PNPST-INS

id-ʃ bol-ox-gii šūū.

食べる-C.SIM なる-PNPST-NEG SFP

(3) （遅くなったので）私たちはもう帰らなければならない。
oori bol-čix-j. bid nar xari-x-gii bol bol-ox-gii.

遅い なる-ACP-MD.CONS 1EX PL 帰る-PNPST-NEG 条件 なる-PNPST-NEG

解説：拘束的モダリティのうちの「義務」は、モンゴル語において、-gii bol boloxgiiという助動詞bolを含む二重否定表現によって示される。また、以下の文のように、xeregteiという付属

1 本データは以下に示すモンゴル国ハルハ方言話者（3人）からのアンケートによるものである。解説はジンガンによる。

・女性，1984年生まれ，モンゴル国オブツアイマグ出身
・女性，1988年生まれ，モンゴル国ウランバートル市出身
・女性，1990年生まれ，モンゴル国ウランバートル市出身
語によっても表現しやすい。この場合、なんらかの必要性が生じたという意味が前面化される。

oroi bol-son tul bid nar xari-x xeregtei.
遅い なる-P.PRF 理由 1EX PL 帰る-P.NPST 必要

(4)（雨が降るそうだから）傘を持って出かけたほうがいいよ。
boroo or-moor bai-na. zoontog-oo av-san ni deer dee.
雨 降る-MSE.EV ある-PRS 傘-REF 持つ-P.PRF FP まし SFP

解説：拘束的モダリティのうちの「推奨」は-ni deer/sain などのように評価形容詞によって示されうるが、dee などの終助詞、あるいは baixaa など話し手の推量を示す認識のモダリティ形式が後続することによって義務化の度合いが弱まる。なお、以下の文のように、ムード形式の-aarai（異形態 -erei, -oori, -örei）によっても表現されるが、聞き手に対する要求的意味が前面化する。

boroo or-moor bai-na. zoontog-oo av-aad yav-aarai.
雨 降る-MSE.EV ある-PRS 傘-REF 持つ-C.ANT 行く-MD.REQ

(5) 年を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ／ものだ。
nas axi-ad ir-ex-eer xülüd-xil-iin-xee üg-iig sons-ox
年 取る-C.ANT 来る-P.NPST-INS 子供-PL-GEN-POSS 言葉-ACC 聞く-P.NPST
xeregtei dee
必要 SFP

解説：(3)と同様に xeregtei によって表現される。または、以下のように習慣や多回性を示す形動詞語尾-dag（異形態 -deg, -dog, -dög）と小辞 yum の組み合わせによって、より一般的な必然性が表現される。

nas axi-ad ir-ex-eer xülüd-xil-iin-xee üg-iig sons-dog
年 取る-C.ANT 来る-P.NPST-INS 子供-PL-GEN-POSS 言葉-ACC 聞く-P.NPST
yum bai-na.
PC ある-PRS.

- 150 -
(6)（お腹が空いたので、私は）何か食べたい。

解説：モンゴル語において、欲求的モダリティの「希望」はモーダルな接辞-maar（異形態-meer, -moor, -möör）によって示される。ただし、-maarの意味範囲はこれのみにとどまらず、「兆候」、「潜在的な状態、理想像との照合」などの意味も示す場合がある。上記のような話し手の望みを示す場合は、一人称主語の場合のみに生じる意味である。

(7) 私が持ちましょう。

解説：モンゴル語のムード形式は、主語の人称によって意味が分化する。一人称主語の場合、動詞語尾は-ya（異形態-ye, -yo, -yö）を取り、話し手自身の意志を示す。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

解説：(7)と同じ形式が使われる。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

解説：相手の意向が不明な場合には、形動詞非過去形が用いられ、疑問文として表現される。なお、以下のように、形動詞非過去否定形を用いることも可能。上記の例よりすこし婉曲な表現となる。
(10) 明日は良い天気になってほしいなぁ。
margaaštenger saixan bai-
明日 天気 よい ある-Ε-MD.DES

解説：ムード形式-aasai（異形態-eeseei, -oosoi, -öösöi）によって示される。上記の例文(7)における-yaと対照的な位置に出現する。

(11a) (私はここで待っているから）すぐにそれを持って来なさい。
bi end xülee-j bai-ya. bušuuxan av-aad ir-
1SG ここに 待つ-C.SIM いる-MD.VOL すぐに 持つ-C.ANT 来る-MD.IMP

解説：モンゴル語において、命令形は動詞に語幹によって示される。なお、以下の例のようにムード形式-aarai（異形態-eerei, -ooroi, -ööre）によってやや弱い命令を示すことができる。

bi end xülee-j bai-ya. bušuuxan av-aad ir-eerei!
1SG ここに 待つ-C.SIM いる-MD.VOL すぐに 持つ-C.ANT 来る-MD.REQ

(11b) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。
en-iig ter xün-d ög-ööd yav-uuł-yə.
これ-ACC その 人-DAT あげる-C.ANT 行く-CAU-MD.VOL

解説：日本語に対応するモンゴル語の表現は、使役形-uułと意志のムード形-yaの組み合わせとなる。なお、以下の例のように、モンゴル語のムード形式には動作主の主語を3人称に限定する-gという動詞語尾があり、話し手から3人称への「許可、放任」を示す。さらに、3人称への「呪い」「罵り」などに使う場合もある。ただし、日本語の訳とぴったりは対応しない。

ter xün avčr-a-g
その 人 持ってくる-E-MD.PERM

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？
bai-aa tür ög-ööč!
ペン-REF 一瞬 くれる-MD.REQ

解説：ムード形式-aač（異形態-eeč, -ooč, -ööč）が使われる。
(13) あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

ter xyatad-aar unš-ǰ čad-dag.

3SG 中国語-INS 読む-C.SIM できる-P.FRE

解説：モンゴル語において能力可能是助動詞čad-によって示される。

(14) 明かりが暗くて、ここに何書いてあるのか、読めない。

xaranxui bol-ox-oor end yuu ge-ǰ bič-sn-iig unš-ǰ

暗い なる-P.NPST-INS ここ 何 という-C.SIM 書く-P.PRF-ACC 読む-C.SIM

bol-dag-güi ee.

なる-P.FRE-NEG INTJ

解説：モンゴル語の状況可能はCV-ǰ bol-によって示される。ただし、CV-ǰ bol-は社会的ルールなど、個人の能力や意志に左右されない場合に多く使われる傾向がある。これに対して、CV-ǰ čad-も部分的状況可能を示しうるが、個人の能力や意志に左右される場合に多く使われる。

(15)（朝早く出発したから）彼らはもう着いているはずだ。／もう着いたに違いない。

öglöö ert gar-san yum čini ödii-d xü-r-eed bai-gaa

朝 早い 出る-P.PRF もの FP 今-DAT 着く-C.ANT いる-P.PRS

ni lavtai.

FP MD.BELI

öglöö ert gar-san yum čini ali xediiin oč-sn-oos garcaagüi.

朝 早い 出る-P.PRF もの FP どれ 幾つ 着く-P.PRF-ABL MD.BELI

öglöö ert gar-san yum čini ödii-d oč-čix-son

朝 早い 出る-P.PRF もの FP 今-DAT 着く-ACP-P.PRF

bai-x yostoi.

いる-P.NPST MD.BELI

解説：認識のモダリティのうちの「確信」を示すには-ni lavtai／-aas garcaagüi などの表現によって示される。さらに、拘束的必然性を示すyostoiによっても表現しうる。-ni lavtai／-aas garcaagüiなどは話し手が無条件に確信していることが前面化されるが、yostoiは条件がそろっているため、必然的にそのような結果に至るという意味合いが前面化される。
(16) (あの人は) 今日はたぶん来ないだろ。
ter öndöödör barag i ir-ex-gūi baixaa
3SG 今日 たぶん FP 来る-PNPST-NEG MD.SPEC

解説：認識のモダリティのうちの「推量」はbaix(aa)によって示される。この形式は助動詞bai-の形動詞非過去形として見ることができるが、推量のモダリティとして用いられる際、多くの場合間投詞aaを伴う。

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。
ter ödii bol-tol ir-ee-gūi bai-x-iig bod-ox-d
3SG 今 なる-C.LMT 来る-PRS-NEG いる-PNPST-ACC 思う-PNPST-DAT
maşin ni zam-d-aa evder-sen yum biš biz.
車 FP 道-DAT-REF 壊れる-PRF PC NEG SFP

解説：モンゴル語で疑念を示すには、yum biš biz といった複合形式を用いることが可能である。

(18) さあ、（昼間だからあの人は家に）いるかもしれないし、いないかもしれない。
ter ger-t-ee bai-j č magadgūi bai-x-gūi č
3SG 家-DAT-REF いる-C.SIM FP MD.POSSI いる-PNPST-NEG FP
bai-j magadgūi.
いる-C.SIM MD.POSSI

解説：認識のモダリティのうちの「可能性」は、magadgūi/magad によって示される。magad は magadgūi の省略形と考えられる。

(19) （額に触ってみて）どうもあなたは熱があるようだ。
či jaaxan xaluun-tai bai-x šig bai-na daa.
2SG ちょっと 熱-PROP いる-PNPST よう いる-PRS SFP

解説：šig baina という表現によって示す。ただし、この表現はなんらかの情報源があれば、視覚／聴覚に問わず用いることができる。

(20) （天気予報によれば）明日は雨が降そうだ。
margaaš boroo-toi gene.
明日 雨-PROP MD.HS
解説：モンゴル語において伝聞は gene によって示される。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけどとある。
xervee mongo-tei bai-san bol ter mašn-iig av-ax san.
もし お金-PROP ある-P.PRF COND その 車-ACC 買う-P.NPST SFP

解説：条件を示す bol による従属節とともに形動詞非過去形による主節動詞が使われる。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。
ta nad-ad zaa-j og-ód-güi yum bol bi
2SGHON 1SG-DAT 教える-C.SIM くれる-P.PRS-NEG PC COND 1SG
tend xür-č ğad-ax-güi bai-san baixaa.
そこで 着く-C.SIM できる-P.NPST-NEG いる-P.PRF MD.SPEC

解説：(21)と同じく bol による従属節が用いられるが、主節の動詞には完了／過去形が現れる。

(23) あの人は街へ行きたがっている。
ter xot nuu yav-ax-iig xüs-deg.
3SG 街 方 行く-PNPST-ACC 想う-P.FRE

解説：モンゴルにおいて、第三者の心情を客体的に捉える専用の形式はない。そのため、上記のように語彙的に表現になる場合が多い。または、話し手の「望み」を示すモーダルな接辞 -maar と証拠性のモダリティ形式の組み合わせで表現する。

ter xot nuu yav-maar bai-gaa bololtoi.
3SG 街 方 行く-MSF いる-P.PRS MD.EV

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。
nadad č naadax-aa uu-lg-aač.
1SGDAT FP そちら-REF 飲む-CAU-MD.REQ

解説：日本語と同じく、使役と命令形の組み合わせで表現する。

(25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。
※(11b)と重複

- 155 -
(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。
ter šireen deer bai-gaa boorc-iig daraa id-eerei.
それ 机上 上 ある-PPRS お菓子-ACC 後 食べる-MD.REQ

解説：専用の形式は存在しない。daraa（後ノ次）などの語彙的要素によって表現される。

(27) もっと早く来ればよかった。
ert-xen šig ir-sen bol zöv bai-laa.
早い-WEAK よう 来る-PPR COND 正しい ある-MD.REAL

解説：bol による条件節とともに評価形容詞zöv（正しい）、deer（まし）などを述語とする主節によって表現される。

(28) あなたも一緒に行ったら（どうですか）？
či č xamt yav-bal (yamar ve?)
2SG FP 一緒に 行く-C.COND どう QP

解説：文脈が整っていれば、条件形で文を終了することは可能である。

(29) オレがそんなこと知るか。
xen med-ex ve.
誰 知る-P.NPST QP

解説：直訳すれば「だれがそんなこと知るか」になるが、話し手自身が知らないという意味を示す。なお、話し言葉では medexev のように疑問小辞 ve が前の動詞と融合する。

(30) これを作った（料理した）のは、お母さんだよね？ いいえ、私が作ったのよ。
- ene xool-iig eej čini xii-sen biz?
これ ご飯-ACC 母 2POSS 作る-PPR SF P
- ūgüi, bi xii-sen şūši.
いいえ 1SG 作る-PPR SF P

解説：モンゴル語では終助詞のbizによって表現される。biz は基本的に不確実な情報を示す機能があり、聞き手が存在する会話文では相手に確認するニュアンスが出る。
略語一覧

<table>
<thead>
<tr>
<th>記号</th>
<th>意味</th>
<th>記号</th>
<th>意味</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Ø</td>
<td>zero form</td>
<td>FP</td>
<td>focus particle</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>first person</td>
<td>FRE</td>
<td>frequent</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>second person</td>
<td>GEN</td>
<td>genitive</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>third person</td>
<td>HON</td>
<td>honorific</td>
</tr>
<tr>
<td>ABL</td>
<td>ablative</td>
<td>HS</td>
<td>hearsay</td>
</tr>
<tr>
<td>ACC</td>
<td>accusative</td>
<td>IMP</td>
<td>imperative</td>
</tr>
<tr>
<td>ACP</td>
<td>accomplishment</td>
<td>INS</td>
<td>instrumental</td>
</tr>
<tr>
<td>ANT</td>
<td>anterior</td>
<td>INTJ</td>
<td>interjection</td>
</tr>
<tr>
<td>BELI</td>
<td>belief</td>
<td>LMT</td>
<td>limitative</td>
</tr>
<tr>
<td>C(V)</td>
<td>converb</td>
<td>MD</td>
<td>mood/modality</td>
</tr>
<tr>
<td>CAU</td>
<td>causative</td>
<td>MSF</td>
<td>modal suffix</td>
</tr>
<tr>
<td>COND</td>
<td>conditional</td>
<td>NEG</td>
<td>negative</td>
</tr>
<tr>
<td>CONS</td>
<td>consecutive</td>
<td>NPST</td>
<td>non past</td>
</tr>
<tr>
<td>DAT</td>
<td>dative</td>
<td>P</td>
<td>participle</td>
</tr>
<tr>
<td>DES</td>
<td>desire</td>
<td>PC</td>
<td>particle</td>
</tr>
<tr>
<td>E</td>
<td>epenthesis</td>
<td>PERM</td>
<td>permission</td>
</tr>
<tr>
<td>EV</td>
<td>evidential</td>
<td>PL</td>
<td>plural</td>
</tr>
<tr>
<td>EX</td>
<td>exclusive</td>
<td>POSS</td>
<td>possessive</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>POSSI possible</td>
<td>PRF</td>
<td>perfect</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>PRF</td>
<td>PROH</td>
<td>prohibitive</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>PRF</td>
<td>PROP</td>
<td>property</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>PRF</td>
<td>PRS</td>
<td>present</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>QP</td>
<td>REAL</td>
<td>realis</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>REF</td>
<td>REQ</td>
<td>request</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>SFP</td>
<td>SFP</td>
<td>sentence final*</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>SG</td>
<td>SIM</td>
<td>simultaneous</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>SPEC</td>
<td>TR</td>
<td>transitive</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>VOL</td>
<td>WEAK</td>
<td>weakness</td>
</tr>
</tbody>
</table>

* Sentence final particle